

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもプラス筑後教室			公表日	2026年3月16日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	静と動でスペース区切る余裕がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	きちんと配置できている。	見守り方に関しては、1つの場所に職員が集まることもあるため、分担をおこなってきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	マットの色分けや、ホワイトボードの使用。視覚にて分かるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日掃除を徹底、危険が伴う箇所にはクッションも使用。	車内清掃は、頻度を増やしていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	用途に応じたスペース確保をおこなっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	年間の計画に基づき、ミーティングにて共有をおこなう。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	アンケートを実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	日頃のミーティングや職員アンケートも実施している。ミーティングノートにて記録も残す。	不登校児童が在籍していて、ミーティングがおこなえない時もあった。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	社内研修、もしくは管理者自発管が外部研修に参加している。	特定の人物の参加が多い。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	アセスメントの記入。担当者会議にも積極的に参加している。	回数的に少ないと感じる場面も。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	個別にて、各職員が記入するシート作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	職員間での情報共有できている。	支援の統一化まで行き届いていない部分もあり、細かい部分では課題が残る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	アセスメントシートの活用。個人にあった支援の徹底。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	その子にあった、支援内容を徹底している。5領域も徹底している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	ミーティングにておこなう。	特定の人が中心となることが多い。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	計画者を変えたり、内容を日々変えている。	外部からの情報も得たりし、初めておこなうことにも挑戦をしていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	個別活動と集団活動で組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	ミーティングができない時は個別にて話しをおこなう。	ミーティングの徹底。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	次の日のミーティングにて共有。	その日におこなう習慣を作っていきたい。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	毎回、記録に残しているし、情報共有をおこなう。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	モニタリング用紙の活用、全職員の意見を集約している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7	0	複数を組み合わせる支援を徹底している。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	おやつ選びや自主活動は自分で選択するようにしている。	職員ばかりを求める児童もいるため、児童同士が繋がる雰囲気作りを。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	担当者が参加し、情報共有を努める。	時間によっては教室の状況で参加できていない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	体制作りはできている。	連携や情報が不足していることも。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	利用日の共有を学校とおこなっている。	寄り添ってくれない部分もある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を努めているか。	4	3	情報の共有に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	7	現在対象者はいない。	状況に応じて、情報提供をおこなう。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	児童発達支援センターとの関りが少ない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	系列の他教室とは関りがある。	教室以外の関わりを持つことも児童達の幅も広がる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	出来る限り代表者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	連絡ノートにて社員も掲示。イベント日に関しては平日より多めの写真を掲示。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	保護者に直接悩みを聞き、相談に応じている。	ペアレントトレーニング関しての研修もなく知識が欠けている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に説明がおこなえている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者の意向を中心に支援をおこなう。	苦手なことに対しての支援に力を入れていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	支援内容の同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	送迎時ではなく、教室にて面談で対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7	イベントの開催の見学は対応している。	こども達の成長を見せる場を設ける必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	早急に対応し、直接の会話か電話での対応をおこなう。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	ホームページ・インスタグラムの使用。	内容がイベント中心の為、日頃の活動も掲示が必要かと。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	書庫での保管、不要分はシュレッダーにて処分。同意書も契約の際もらっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	視覚・聴覚・ジェスチャーなどを使い分かりやすくおこなう。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7		地域住民との関りが少なく、挨拶程度でしかない。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアル作成・保護者への注意喚起のプリントも配布している。研修・訓練も実施。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	定期的に災害に備えての訓練や方法説明の実施。作成したものは掲示もおこなう。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	アセスメントシートや契約・見学时に必ず確認をおこなう。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	アレルギーがある児童が職員より自覚があり、保護者からも説明がある。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画の作成・研修・訓練の実施。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	お便りの配布にて伝えている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	職員間での共有。	意見が偏ることも、特定の職員にのみヒヤリハット報告が目立つ。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	研修の徹底ができています。外部研修にも参加し、職員に周知している。	固定の人が研修に行きがち。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	現在該当者はいない。	対応できるように体制を整えておく。